



森のなかま

2019年2月号

NO. 130 (継続275号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

平成30年度 第3回ブラッシュアップ研修会 (公財)かながわトラストみどり財団主催

『人工林の間伐研修』

講師: (有)西さがみ森林 一寸木氏、鶴田氏、渡辺氏

平成30年12月8日(土)9:00~15:45 場所:足柄下郡真鶴町岩 (真鶴町県行造林)

スケジュール

9:00~9:45 バス小田原駅発~さつきの郷
9:45~10:15 オリエンテーション 現地へ
10:15~12:00 選木・間伐
12:00~13:00 昼食 昼休み
13:00~15:00 間伐/整理 講評
15:00~15:45 さつきの郷発車 小田原駅へ

(公財)かながわトラストみどり財団:豊丸課長、内田様 他

参加者:47名

1班:菊池①、有坂⑧、小沢⑨、吉田⑪、石川⑫、鈴木(淳)⑭、塚野⑮、大高⑮
2班:佐藤⑤、飯澤⑨、後藤⑩、松本⑪、黒川⑬、野村⑭、石垣⑮、植原⑮
3班:滝澤⑤、水津⑨、大澤⑩、松永⑪、宇田川⑬、牧石⑭、河西⑮、小杉⑮
4班:大道⑥、福島⑨、松山⑩、湯浅⑪、斉藤⑬、水野⑭、飛田⑮、佐々木⑮
5班:小野⑦、村井⑨、小笠原⑩、真貝⑪、前田⑪、岩田⑭、森⑮、小野寺(孝)⑮
6班:渡部⑦、辻村⑨、山下⑪、上宮田⑪、伊東⑭、小松⑭、妙泉⑮

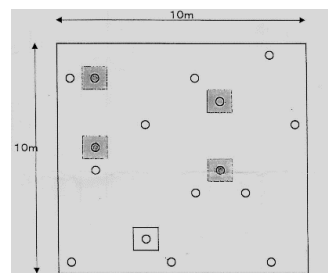


オリエンテーション



班毎の講師より指導開始

(写真撮影:財団 内田様、広報:松本⑪)



選木標準地(10m×10m)
選木の例 16本×0.25=4本

<感想:第6班研修生 伊東 健二 14期>

時折日差しが差し込むものの、体を動かしていないと寒さを感じる天候の中で、経験豊富なインストラクターから経験の浅いインストラクターまでが基本に立ち返って間伐手順を再確認する有意義な時間となりました。

標準地(今回は10m×10m)を設定し、胸高直径を計測するなど、日頃の活動では実施していない作業を含めて安全で基本的な手順を確認しながら作業を進めました。

伐倒する樹木の選木と順番、伐倒の方向、受け口の深さと角度や追い口の高さ、ロープでの誘引要領などを班員同士で確認し、二股となった木、密集したエリアの木などヒノキ3本を活動時間の中で間伐しましたが、樹木の形状や地形、立ち位置やノコギリの扱い方一つで微妙な変化が生じ、イメージどおりに伐倒することの難しさを改めて感じました。また、西さがみ森林の指導者の方からは、かかり木となった場合の対処方法など、今後の活動において参考となる実践的なアドバイスをいただき、プロの技術も随所に見ることができました。

最終的には自分たちの伐採した樹木がどのくらいの価値となるか換算した結果では、私たちの手法では、労力に見合う対価を得るには到底及ばないことも確認しました。ただ、少しでも森林環境の改善のために、今後も技能向上を図り、多くの場数をこなし経験を積む活動をしていきたいと思います。



選木地設定



選木

＜感想:第4班研修生 佐々木 秀喜 15期＞

インストラクターの資質向上と安全な間伐作業を行うために財団主催の間伐研修に参加しました。関東ではこの冬の最低気温と曇天の中、私は4班8名で6期生の先輩やベテランの方々と共に先ずは標準地を設定、伐採率を目安にそこから5本を選木、胸高直径を計測し伐採順序を決め、いつもの手順で伐採開始です。

先ずノコを入れる箇所をマーキングし水準器で平行を見て受け口を切り込みました。伐倒方向とズレがないかノコを止め全員で確認し合い、そこで活躍したのが誰かが持参した団扇を半分に切って柄を伐倒方向に合わせて確認する道具でした。切り口の深さも分かる優れもので間伐の実体験から生まれた手作りの発明品です。そして数回ノコの軌道修正を行い追い口も入れ、ロープと滑車を使って倒し、最後にツルを検証、均一に残りました。これは何度も伐倒方向と切り込み方向、深さを確認しながら進めた結果、時間は要しましたが必要な作業だと感じました。

一方、フェリングレバーを使い材を回転させる掛り木処理の際に、レバーを自分側に引くのは危険なので、向こう側へ押すようにと講師から注意が。身の安全を最優先に ましてや指導する立場になれば危険回避が一番です。ノコが均等に引けず端は深く、中心が浅いなど自身の技量不足を思い知り、他にも学ぶべき点が多々ありました。結局 時間内に伐倒できたのは4本、胸高直径と樹高から算出した合計材積は0.65 m³でした製材価格1万円にもならないと財団の内田さんから。くたびれ儲けの作業でしたが班のメンバーも納得の様子。寒さの中、大変お疲れ様でした!

最後の全体講評では「作業の流れがスムーズでした。常に安全第一に、更に技術を磨いて下さい。皆さんにご協力を頂く山は沢山あり、今後も期待しています」と講師からありました。無事に作業を終え、帰路のバスの車窓から見えるミカン畑と眼下に浮かぶ初島が疲れを癒やし、清々しい気分での研修を終えました。



受け口の斜め部

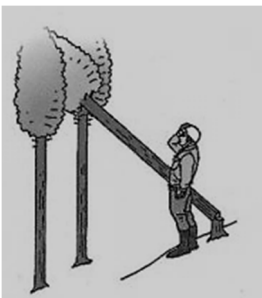


追い口



伐倒 でも 掛り木に

掛り木処理 ⇒ フェリングレバー使用



イラスト(森林づくりボランティア手帳より)



受け口、追い口、弦(ツル)の角度/厚さ GOOD



樹高実測定



玉切り、枝払い



全体講評

森林部会 平成最後の『親睦会』が開催されました。 場所:伊勢原市三ノ宮ひじりの森フィールド
日時:平成 31 年 1 月 6 日(日)9 時～13 時 30 分 晴れ 参加者:28 名

<記 竹内 明彦 15 期> (撮影 松本 11 期)

未だ松飾りも取れない 1 月 6 日、森林部会の親睦会が伊勢原市三ノ宮「ひじりの森」で元気よく開かれました。平成 30 年末から 31 年正月松の内は好天続きでしたが、あいにくこの日だけはどんよりと雲がのしかかり、冷たい大山下ろしが吹く寒い日となりました。然し、集まった森林部会の年齢不詳の(?)猛者達は、全く意に介しません。

伊勢原北口から 8 時半にバスに乗り、保国寺前で下車。10 分ほど歩いて、ひじりの森フィールドに到着しました。滝澤部会長の挨拶に続き、足立さんから 5 年経ったひじりの森の活動が紹介されました。周りに残る荒れた竹林に比べ、見違えるように整備されているのが良く分かります。佐藤さんから本日の活動説明を受けた後、大高さんの指揮で軽くストレッチ。まずは山の神社に本年の安全を祈願します。献じられた日本酒は後ほどの親睦会のために、ありがたく下げさせて頂きました。

その後、佐藤班、松永班、富樫班の三班に分かれて斜面にある竹林を上から下りながら整備します。枯れたものや曲がったものを中心に、各班かなりの本数を切り倒し、玉切り、枝払いをした後、動かないように整理しました。足下は落ち葉などで不安定ですが、2 時間汗を流して、無事終了。お待ちかねの親睦の部に移ります。

ビールで渴きを癒やし、差し入れの日本酒へ。お燗されているのが嬉しいです。持ち寄られたつまみに舌鼓を打ち、さらにお楽しみの、スタッフ入魂の豚汁をフウフウいながら頂きます。時折りまれ交じりの冷たい物も落ちてきますが、腹の中はポカポカしてきました。落ち着いたところで全員の自己紹介をして本年度の決意表明(?)に代えました。

最後の後片付けで、残った酒と豚汁を無理矢理腹に収め、帰途に就きました。心なしか脚がふらつきます。(疲れそれとも??個人の感想です…竹内)。

参加者 足立④、佐藤⑤、相馬⑤、滝澤⑤、富樫⑥、小野⑦、飯澤⑨、内野⑨、辻村⑨、大澤⑩、松山⑩、真貝⑪、松永⑪、松本⑪、湯浅⑪、宇田川⑬、北村⑬、斎藤⑬、水上⑬、岩田⑭、小松⑭、鈴木⑭、西岡⑭、石垣⑮、大高⑮、河西⑮、妙泉⑮、竹内⑮



オリエンテーション



安全を祈願して山の神社に拝礼



作業風景



お待ちかねの 親睦タイム開始



おいしいトン汁です



上から目線撮影の全員写真

森のめぐみ シリーズ

枠組は桜の小枝です

害虫の襲撃を受けた樹木は害虫の嫌がるタンニンを作りだして身を守るだけでなく、近くの木に危険が迫っていることを知らせることを前回ご紹介しました。この現象は言い方を変えれば仲間に迫った危険を近くの木が聞き耳を立てて聞いていることにもなります。微量な香り成分の分析技術や生物検定技術の進歩により植物と害虫の関係には興味ある話が次々と明らかにされてきています。次の例はその一つです。これは京都大学の高林純示先生らによってリママメを使って確かめられた現象です。リママメはインゲンの仲間です。食用とされる豆ですが、ペルーのリマから輸出されたことからその名がついたと言われていました。

リママメの葉はナミハダニというダニに食害を受けると、ナミハダニの天敵のチリカブリダニを誘引するにおい物質を放出します。そしてチリカブリダニを呼び寄せ、ナミハダニを退治してもらうというものです。そればかりではありません。近くにある害を受けていないリママメもそのにおいを感知して、天敵を呼び寄せるにおい成分をあらかじめ作りだすのです。リママメとそれを食害するナミハダニ、そしてそのダニの天敵チリカブリダニ、三者が関わるこの関係を先生は三角関係と称しています。三角関係は男女間の複雑な恋愛関係だけでなく植物にもあるのです。

純に二者だけの間の関係だけでなく、植物と昆虫の間にはさらに複雑な関係が隠されているのです。このような複雑な関係が解明されてくるにつれて食害された植物が作りだすタンニンのような忌避物質だけに頼ることなく、天敵を呼び寄せる物質や天敵そのものの利用が作物の健全な栽培に役立てることもできることにもなります。

黙って静かに立っているように見える植物ですが、実は人知れず生きるための努力をしているのです。害虫に襲われた草木の悲鳴とも聞こえる発信を聞き耳を立てて害虫の襲来に備えて事前に準備をしておく例として次のような現象も報告されています。

第28回 聞き耳を立てる植物

東京大学名誉教授 谷田貝 光克 氏



セージブラッシュ

それは北アメリカ西部の半乾燥地帯に生育するセージブラッシュと野生のタバコの関係です。セージブラッシュ (*Artemisia tridentata*) はキク科ヨモギ属の 1m~2m 程度に成長する低木です。銀色を帯びた緑

の葉の間から花開く小さく黄色の花の香りはフラワーエッセンスとしても人気があります。

セージブラッシュの群落の間に一年生草本の野生タバコが生育しています。ところがこのセージブラッシュの葉に故意に傷をつけると、その近くに生育している野生タバコの害虫による食害率が、無傷のセージブラッシュの近くの野生タバコの食害率よりも低いことが分かったのです。この現象は食害を受けたセージブラッシュからの危険信号を近くの野生タバコが聞きつけてあらかじめの防衛を始めたこととなります。そしてその情報伝達に用いられた化学物質はジャスモン酸メチルという脂肪酸の 1 種の揮発性物質です。ジャスモン酸メチルは植物の防御以外にも種子の発芽、根の伸長、開花などの植物が生きていく上での重要な役割を果たす物質です。

傷つけられた時に出てくるセージブラッシュの危険信号は、野生タバコにだけでなく、同じ種類のセージブラッシュにも効果があることもわかっています。セージブラッシュの葉を切ると同じセージブラッシュの枝の葉だけでなく、近くのセージブラッシュの葉も食害率が低くなりますが、葉を切った枝を袋がけして揮発性成分が外に出ないようにすると食害率の低下は認められません。このようなことから傷ついた葉からの揮発性物質、ジャスモン酸メチルが食害率の低下に関わっていることがわかります。

(イラスト 広報部 加藤 優美 ⑤)

活動短 信

今回の掲載は H30 年 10/27~11/4 です。
寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

フリーイラスト
より

霜始降 10/23~10/27 頃
しもはじめてふる
霜が初めて降りる
第五十二候 霜降 初候

楓蔦黄 11/2~11/6 頃
もみじつたきなり
楓や蔦が色づく
第五十四候 霜降 末候

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。
(できれば Word、メール直筆でも OK。Excel はできるだけ
避けてください。改行等の処理に手間を要しますので)
写真もあれば1枚添付ください。

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付(できれば時間と天気も)
場 場所 (例:相模原市緑区 長竹承継分収林)
参 参加者 人数
県 神奈川県 環境農政局 緑政部
水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財(公財)かながわトラスみどり財団、**看** 看護師
スタッフ 例 小田原市森林組合XX様
例 川崎市公園緑地協会・XX様

イ インストラクター (○数字:期) **研** 研修枠
以下の本文を概ね400字前後を目安として執筆ください
リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェック
をお願いします。(執筆者もお忘れなく!!)

◆ 手作り体験教室③「竹細工と手打ちうどん」

日 H30 年 10 月 27 日(土)8:30~13:00、曇り

場 南足柄市内山 県立21世紀の森

参 9 名(大人 5 名、子供 4 名)

スタッフ 21 世紀の森 (榎アグサ、辰巳様、平井様、
荒木様、弘島様、食堂の平塚様)

イ L 柏倉④、小沢⑨

森林館に併設した研修室で 8 時 45 分から本日参加者の皆様の受付開始、2 家族のご来場を頂き用意したモウソウ竹を使い、竹箸とソバ猪口(ちょこ)の作成。

ソバ猪口は各自が使用したい、これと思う物を探しやすりで角取り、竹箸は鉋で 2 つに割り 切り出し刀を使用して箸の姿へと変身、刃物は普段使用しない為皆さん慎重でした。出来上がった物を熱湯消毒、食べる準備完了です。

場所をふれあい食堂の多目的ホールに移り、待望の手打ちうどん作りの開始です。中力粉 500 グラムから家族が協力してうどんの形へとイメージしながらそれぞれの工程

をにぎやかに、且つ楽しく行っていました。こま板をあて包丁で切るとうどんの完成です。昼食時間にピタリと合い試食をしながら本日の作業を振り返り一部はお土産としての持ち帰りのおまけを手に、次回の行事に参加してもらうためのアンケートを記入して頂き、笑顔でお別れ!

(記 小沢 章男 ⑨)

◆ 環境・エネルギー学校派遣事業~かながわ環境教室~
「水の中の生き物ウォッチング」(2 校実施)

【1】横浜市立品濃小学校

日 H30 年 10 月 29 日(月)、晴れ

場 横浜市戸塚区品濃町

参 小学 5 年生 1 クラス 33 名

イ 井出①、足立④、堀江④、小野⑮

【2】私立捜真小学校

日 H30 年 11 月 9 日(金)、曇り

場 横浜市神奈川区中丸

参 小学 6 年生 2 クラス 59 名

イ 井出①、高橋③、足立④、堀江④、宮本④

いずれの学校も校内にビオトープ池があり、水生生物を採取し観察することで、水の中の生物の存在と多様性を気付かせ、水の中の生き物のつながり、環境とのかかわりを学ぶことを目的に授業を行った。(品濃小学校は水田施設でも実施)

池では各自手網で水生生物を採取、泥や落ち葉なども一緒にバケツに入れていく。皆大変熱心で、夢中になって活動を行った。また、自作のプランクトンネットでプランクトンの採取も試みた。

教室に戻り、白バットに移して水生生物を観察、インストラクターが用意した検索シートと見比べながら同定を試みる。各種ヤゴが多く見つか、他にはユスリカの幼虫、タニシ(水田)、カワゲラの幼虫なども見つかった。ミジンコなどのプランクトンは顕微鏡で観察した。

最後に、プロジェクターを使用し、ビオトープを維持する目的、生き物のつながり、生態系、環境などについて解説を行った。

沢など流水系での水生生物観察は従来行ってきたが、今回初めての止水系(池)での水生生物観察であり、授業の進め方に戸惑うこともあったが、2 校実施することで、かなり実績を積むことができたので、これからもこの活動(学校ビオトープ池での水生生物観察)に対応していきたいと考えている。

(記 井出 恒夫 ①)

かながわしずくちゃん Facebook は下記URLで見ることができます。

かながわの水環境の
保全・再生をめざして

<https://www.facebook.com/kanagawa.sizuku>

◆ 横浜市立上菅田小学校

林業について知ろう！学ぼう！体験しよう！

日 H30 年 10 月 30 日(火)

場 相模原市緑区長竹 承継分収林

参 小学 5 年生 132 名 教師等 12 名

財 内田様 古館様

イ L 柏倉④、佐藤⑤、渡部⑦、有坂⑧、齋藤⑧、
鈴木⑧、内野⑨、小沢⑨、村井⑨、松山⑩、
西出⑫、上田⑩、星野⑬

さわやかな秋風の心地よい晴天の中、上菅田小学校 5 年生の林業体験が始まりました。

間伐をすると明るくなり下草が生えて、その土周りの生態系が豊かになることなど、作業の目的と、豊かな森が水をためたり、おいしい水を作ったりできることなど森林のはたらきを確認し、各班作業に取り掛かりました。

かかり木を克服した班、スムーズに倒木した班、太い木をじっくりと倒した班、班毎にドラマがありました。また、まとめ役がいたり、作業分担がうまくいっている班など各班のチームワークが進められました。

体験後には、作業を振り返る会があり、「楽しかった」「この体験を人生に活かしていきたい」との感想が。将来の森林づくりへの協力を呼びかけて、閉会となりました。

(記 星野 澄佳 ⑬)

◆ 横浜市立希望ヶ丘小学校 自然観察

日 H30 年 10 月 31 日(水)9:00～11:00、晴れ

場 愛甲郡愛川町 県立愛川ふれあいの村

参 小学 4 年生 93 名、教師 8 名

イ L 堀江④、島岡③、柏倉④、小沢⑨、村井⑨、
松山⑩、松本⑪、永松⑫、西出⑫

秋のさわやかな青空が広がり、黄葉し始めたイチョウが美しい「愛川ふれあいの村」で自然観察を行いました。活動の内容は、「愛川ふれあいの村」で考案された「木ラリー」を使って行いました。

村内の主な木に付けられた説明札(番号、木の名前・特徴を表示)を探して、解答用紙に木の名前などを記入します。オリエンテーリングを行った後、班毎にインストラクターと児童 10 人程が一緒に歩いて、児童が木を探し当てたら、インストラクターがその木にまつわるお話をします。

移動中も、いろんな木の実が落ちていて、子供達はそれを拾い集める楽しみもあります。イロハモミジの種子を飛ばしたり、カツラの落ち葉の香りを匂ったり、五感をフル動員して秋の自然を楽しみながら、樹木の学習を行いました。途中、休憩所では、インストラクターが森の働きや人と森のかかわりについて話をしますと、子供達は熱心に耳を傾けていました。楽しみながら自然について、たくさんの事を学べたと思います。

(記 西出 健一 ⑫)

◆ 県民参加の森林づくり 間伐

日 H30 年 10 月 31 日(水)8:40～14:00、晴れ

場 足柄下郡湯河原町鍛冶屋 (町有林)

参 44 名

財 古館様 大木様 看 小林様

スタッフ 小田原市森林組合 佐久間様

イ L 鈴木⑧、渡辺(敏)⑫、斉藤⑧、黒川⑭、
徳岡⑪、野牛⑧、小野⑦、竹内⑮、山崎⑫、
水津⑨、宮下⑫、阿藤⑮、小笠原⑩、東(昭)⑫、
牧石⑭、江上⑬ 研 鈴木③

8:40 JR東海道線湯河原駅へ集合し、マイクロバス 4 台で一路目的地へ。天気は晴、無風、紅葉にはまだ早いが絶好の間伐作業日和にめぐまれました。現地到着後、鈴木リーダーのもとスケジュールの説明、インストラクター紹介、作業内容、注意事項等の説明があり、参加者総数 44 名 4 班に分かれて間伐作業現場へ徒歩で移動した。

10:10 我が 3 班は 11 名で 6 名、5 名の 2 つの班に分かれて間伐作業開始した。参加者は初めての方が 1 名、他の皆様はリピーターで作業も手馴れており、順調に間伐作業が進み無事作業終了しました。最後に道具類の手入れ点検、収納し全て完了しました。

12:10 広場で昼食を取りながらグループミーティングを行い参加されたボランティアの皆様楽しく安全に作業できたことへ感謝と再度の参加をお願いした。

13:00 全工程終了。バスに乗り、JR湯河原駅へ向う。

14:00 湯河原駅到着後バス下車解散、財団の大木さんへ本日の各班の参加人数、総伐採数、ヒヤリハット、意見等を報告しました。皆様お疲れ様でした。

(記 宮下 啓一 ⑫)

 **丹沢**
丹沢の自然再生に取り組む 丹沢大山自然再生委員会の
ホームページをご覧ください。 <http://www.tanzawasaisei.jp/>

◆ 横浜市立柏尾小学校 間伐体験

- 日 H30 年 11 月 4 日(日)9:30~13:00、曇り時々雨
 場 相模原市緑区長竹 承継分収林
 参 小学 5 年生 95 名、教師 8 名
 イ L 小沢⑨、柏倉④、足立④、有坂⑧、鈴木⑧、久保⑧
 松本⑪、上宮田⑪、西出⑫、木村⑭、角石⑮

時より雨の降る不安定な天気でしたが、大型バス 2 台で到着した子どもたちは、班ごとに始めの会で、インストラクターから諸注意受け、道具(ヘルメット、ゴーグル、鋸)を装着し、活動場所へ移動しました。

活動場所へ向かう山中では、先日の台風による影響で、倒木している木が数本あり、倒木を避けて活動場所へ向かう場面もありました。

選木された伐採するヒノキは、植林から 15 年程度成長した木で、白いテープが目印で付けてあります。

みんなで、伐倒方向や避難経路、周囲の安全確認をした後、伐倒木にロープを掛け、伐倒方向にある木にスリングと滑車を準備してから、間伐を始めました。

チョークを使って「受け口」「追い口」「ツル」の説明を行い、鋸の使い方のお手本を見せてから小学生に体験してもらいました。

最初は鋸が上手に使えず、苦勞していましたが、「体勢を整え、身体で中心で引くこと」をアドバイスした後は、みんな上手に鋸を使えるようになり、力を合せて間伐することができました。その後、枝払い、玉切り作業を行い、小雨が降っていましたが、山中でお昼ご飯を食べながら、森林の役割や間伐の必要性などについてお話し、小学生からは、午後の活動や明日の活動予定など聞き、交流を深めることができました。

終わりの会では、生徒から「楽しかった」「もっとやりたかった」「大変だった」など、感想が聞かれ、班によっては、穴を掘って TENT を設置した仮設トイレを見学し、体験した子どももいましたが、怪我も無く、インストラクターが子どもたちの乗ったバスを見送り、無事に終了することができました。

(記 角石 正明 ⑮)

◆ 街頭キャンペーン川崎 (かわさき市民祭り)

(詳細は H30.12 月号に掲載済み)

- 日 H30 年 11 月 2、3、4 日(金、祝、日) 10:00~16:30
 場 川崎市川崎区富士見公園(川崎競輪場西スタンド 2F)
 参 11/2:104 名(大人 92 名、子ども 12 名)
 11/3:233 名(大人 118 名、子ども 115 名)

11/4:242 名(大人 122 名、子ども 120 名) 合計:579 名

- イ 11/2:11 名 L 森本⑤、鈴木⑤、小野⑦、斎藤⑧、村井⑨
 大塚⑪、松本⑪、門澤⑫、星野⑬、溝田⑬、石井⑮
 11/3:14 名 L 小野⑮、井出①、高橋③、足立④、
 相馬⑤、安部⑤、富樫⑥、武本⑦、小野⑦、小沢⑨、
 宮下⑩、大塚⑪、松本⑪、溝田⑬
 11/4:16 名 L 森本⑤、高橋③、島岡③、安部⑤、
 鈴木⑤、武本⑦、渡部⑦、中島⑨、村井⑨、青木⑩、
 宮下⑩、大塚⑪、江頭⑬、大原⑬、手島⑭、小野⑮
 財 11/2:佐々木様、11/3:小菅様、11/4:内田 様

川崎市での最大のお祭りである「かわさき市民祭り」に今年も出店し、恒例の「かながわ水源の森林づくり」を展開。昨年同様、クラフト参加者から参加費@100 円をいただき、全額を緑の(羽根)募金に充てることも継続。開催場所が天候リスクのない屋内で、安心・安全な良いキャンペーンとなった。

(記 森本 正信 ⑤)

募集 「やどりきの森へ行こう ③!」

2019 年 3 月 16 日(土)

新松田駅北口 8:30 集合

イベント当日は、水源林ゲート前まで臨時バスが乗り入れます! (運賃各自負担:片道 620 円)

【群生するミツマタの開花を観察:募集 50 名

早春に咲くミツマタ観察は人気の定番コース

新松田駅集合 8:30 ⇒ 新松田駅着 14:10



・問合せ先:公益財団法人かながわトラストみどり財団みどり森林課

TEL:045-412-2255 web サイト:www.ktm.or.jp

・申し込み先: NPO 法人 かながわ森林インストラクターの会
 住 所 所 243-0018 厚木市中町 2-13-14 サンシャインビル 604

E-mail: k-inst0981@friend.ocn.ne.jp

イベント名・日時、参加者全員のお名前、住所電話番号を記入の上往復はがき、又はメールでお申し込みください。



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取組んでいます。

全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

やどりき水源林ミニガイド

1月のトピックス

2019年の山の神祭が行われました。
(詳細は3月号に掲載)



(山の神詣でで会員が続々集合 1月13日)

2月の水源林

やどりきは冬の真ただ中。
普段見られない小鳥や動物がコッソリ動きまわっています。うまくすると遭遇することができるかも。

「森の案内」情報

(12月、1月、2月はお休みです)

●実施時間: 毎週土曜・日曜

AM10時・PM1時、1～2時間程度

●集 合: 水源林入口ゲート前

●内 容: 森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ手入れなどについて説明致します。参加自由、参加費無料

*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

●問合せ: (公財) かながわトラス

みどり財団 TEL: 045-412-2255

FAX: 045-412-2300

●ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>

<http://ktm.or.jp/contents/event/127/yadorikih27.html>

E-mail: midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。

バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35～40分。

寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

湯河原梅林(幕山公園)
梅の宴

期間: 2/2(土)～3/10(日)9:00～16:00

ライトアップ: 2/23(土)～3/3(日)18:00～20:30

問合せ先等: 湯河原温泉観光協会

Tel: 0465-64-1234 Fax: 0465-63-1716

<http://www.yugawara.or.jp/>

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

松本 保

Mail: matsutamori@jcom.zaq.ne.jp

Tel: 090-7962-3168

<電子配信担当> 笠原かずみ

Mail: happy_kumakuma711@icloud.com

Tel: 090-4137-9265

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】松本 保

〒246-0037 横浜市瀬谷区橋戸 3-46-17

Fax: 045-301-9401

電話連絡先: 090-7962-3168

Mail: matsutamori@jcom.zaq.ne.jp

【別冊】黒川 敏史

〒247-0066 鎌倉市山崎 2273-1-515

Tel: 080-5477-2206

Mail: kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊はCCを】福島 正治 (事務局長)

〒214-0006 川崎市多摩区菅仙谷 3-1-1-204

Tel/Fax: 044-944-9423

Mail: fukky52000@yahoo.co.jp

原稿は随時受付けています。

森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) [http://www.forest-](http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01)

[kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01](http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01)

(HP担当: 井出恒夫)

編集後記

★松田の寄ロウバイ祭りに行ってきました。会場付近には、横断幕がかかり、キッチンカーやお猿の曲芸も出ていました。年々盛大になっていますが、変わらないのはロウバイの甘い香りです。

(笠原)

★鎌倉の谷戸米作りの農閑期は、粃殻くん炭をやっています。粃殻の山の中心に火種を入れて、粃殻に火がつかないように見守っていると、粃殻全体が真っ黒な炭になります。苗床に撒いて使っています。

(黒川)

★「冬晴れの日横浜の高台からは丹沢、富士山が美しい! 途中にある大学の学食でランチ、テラスのあるスタバでコーヒブレイク。私のダイエットを兼ねた? ウオーキング風景」。

(阿藤)

★「平成」も終わり、新しい年号が始まる。思えば昭和に生まれ平成、そして新しい年号。

世界や日本の歴史を振り返ると、その進歩に感謝すると同時に未来への不安もまた感じる。

(吉田)

★最近よく見かけようになった草がある。調べたらメキシコカルカヤというアメリカからの外来種でした。強そうで心配です。(写真参照)



(松本)

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集人: 松本 保

事務局: 福島正治

広報部: 藺田栄哉 吉田郁夫

黒川敏史 笠原かずみ

加藤優美 阿藤壽孝 竹内明彦

支援: 伊藤恭造 大原正志 江頭淑子

第21回 まつだ桜まつり

開催地: 神奈川県松田町西平畑公園 (松田山ハーブガーデン)

開催期間: 2月9日～3月10日 09:00～17:00 5分咲き頃からライトアップ開始
ライトアップ時は21:00まで開園

問合せ: 松田町役場観光協会 電話番号: 0465-85-3130

関連サイト: http://letsgo-matsuda.com/?page_id=3254 (外部サイト)

